

デュオスマイル Duo Smile

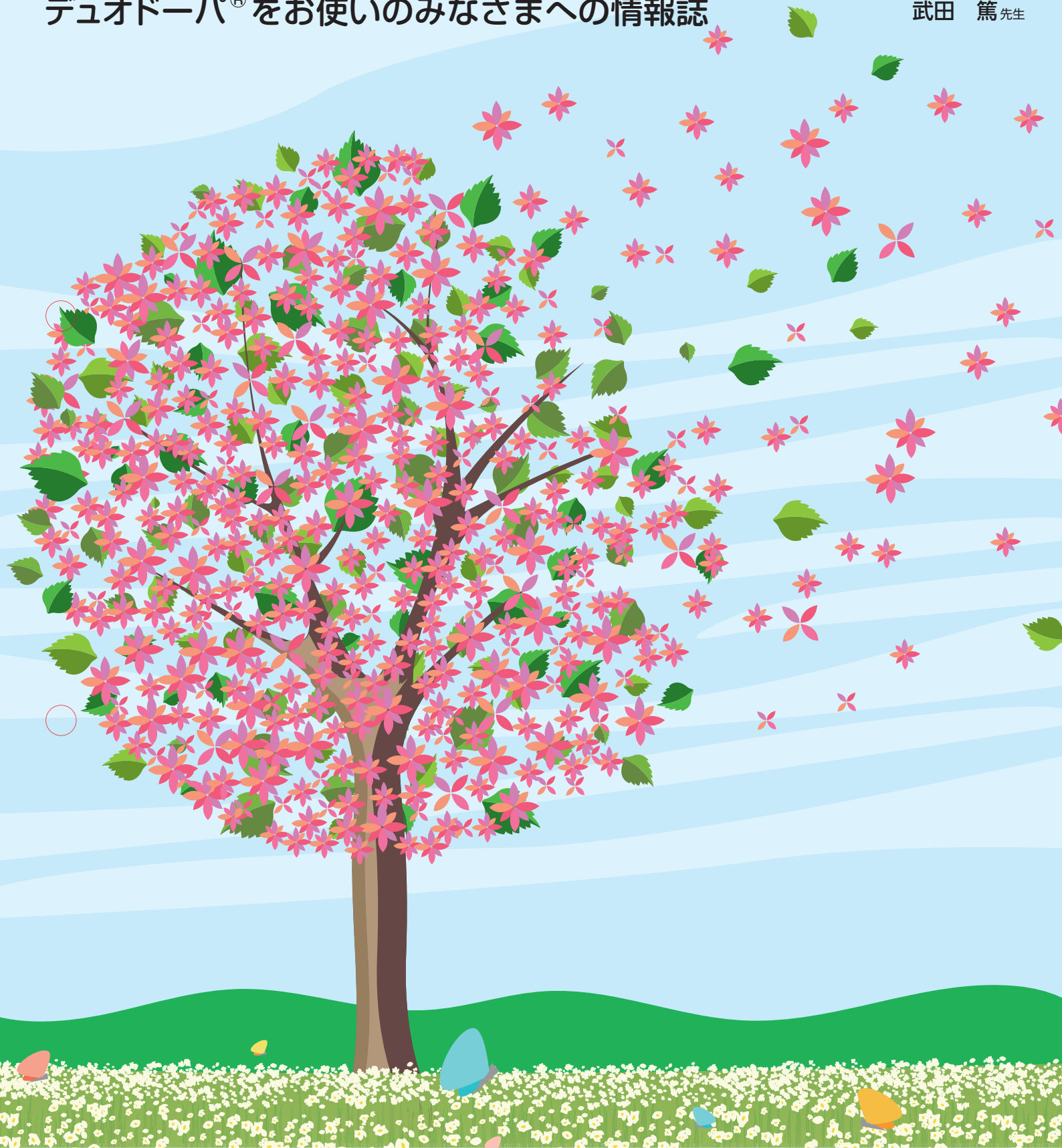
デュオドーパ®をお使いのみなさまへの情報誌

Vol.
6

〔総監修〕

独立行政法人 国立病院機構
仙台西多賀病院 院長

武田 篤 先生



abbvie

デュオドーパ治療に欠かせないポンプの取り扱いについて

私は、臨床研究コーディネーター(CRC)として、治験からデュオドーパの使用に6年以上関わっています。当院には治験からデュオドーパの使用を開始して、6年以上継続している方もおられます。(2020年3月現在)デュオドーパ治療を安心して続けていただくには、日々のポンプ操作、チューブの管理や胃ろうのケアまで覚えることがたくさんあります。なかでもポンプ操作については少し難しく感じる方もいらっしゃるため、導入時には繰り返し練習していただいています。それでも、日常臨床のなかでポンプについてのお問い合わせは少なくありません。ポンプの仕組みを知ることによって、患者さんご自身やご家族の方で解消・対応できることもあります。

今回、私のデュオドーパ治療における経験をもとに、皆さんのお役に立つ情報をお伝えできたらと思います。

国立病院機構 独立行政法人 宇多野病院
臨床研究部 治験管理室 副看護師長 大塚 歩

(所属・役職は2020年3月現在)

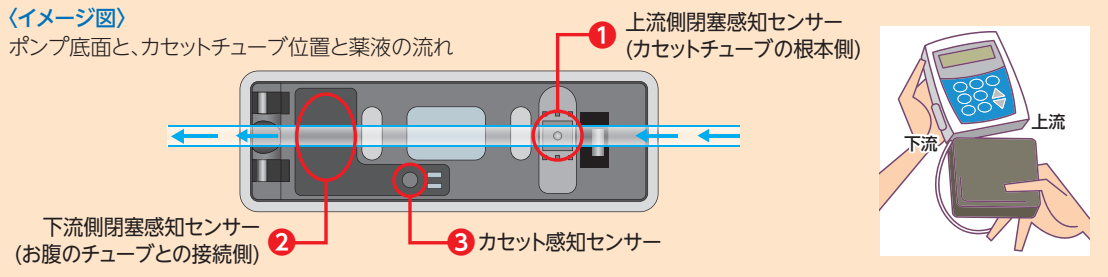


ポンプのセンサーと役割を知りましょう

ポンプ底面には、お薬を送り出す機能に加え、さまざまなセンサーがついています。ポンプのアラームが鳴るのは、これらのセンサーが何かを検知してお知らせしているのです。

〈イメージ図〉

ポンプ底面と、カセットチューブ位置と薬液の流れ



① 上流側閉塞感知センサー

チューブとの接触面の圧の変化により、カセットの中からお薬が出にくくなっていることを感知し、アラームと[アップストリームハイソク]の画面表示でお知らせします。

② 下流側閉塞感知センサー

チューブとの接触面の圧の変化により、カセットチューブの中のお薬が流れにくくなっていることを感知し、アラームと[コウアツアラームハイソクアリ]の画面表示でお知らせします。

③ カセット感知センサー

薬液カセットとポンプとの接触を感知し、何か問題がある場合にはアラームと[カセットナシドウサフノウ]の画面表示でお知らせします。

ポンプのセンサー部分はとてもデリケートです。

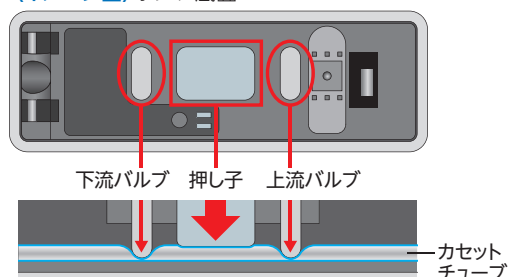
ポンプを使用していない時は、保護カバーを必ず取り付けて大切に保管してください。



ポンプの送液の仕組みを知りましょう

ポンプ底面の薬を送り出す機能について簡単に解説します。上流バルブ、下流バルブ、押し子が交互に上がったたり下がったりして、チューブを押して薬剤を送液します。朝の投与や追加投与等の急速投与は、持続投与に比べてバルブ等の動く間隔が速くなります。

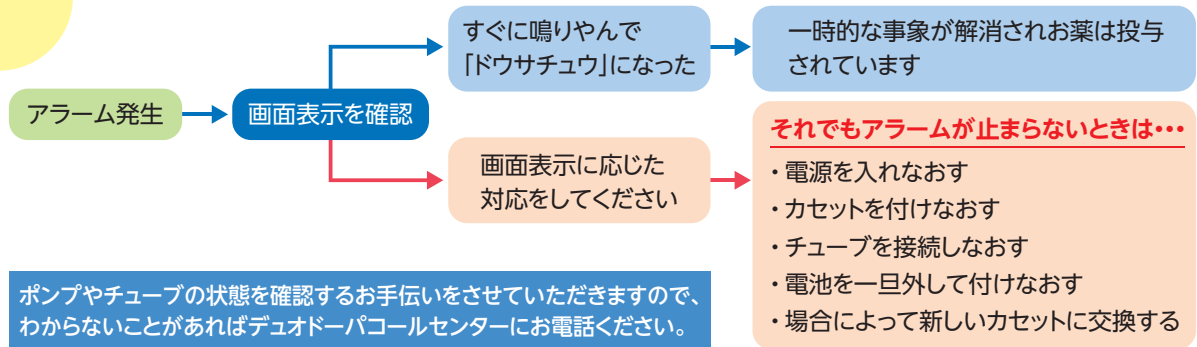
〈イメージ図〉ポンプ底面



〈イメージ図〉送液時ポンプ底面(横から見た場合)



ポンプアラームが鳴ったら、落ち着いて順番に確認しましょう



センサーが感知する主なポンプアラームと原因を知りましょう

アラームが鳴ったらまずは画面を確認してください。
突然のアラームに慌てないよう理解を深めておきましょう。

アップストリーム ヘイソク

- 薬液カセットは冷蔵庫から出して20分間程経過していますか？
- カセットの中のお薬は残り少なくなっていないですか？
- ポンプは正しい向きで携帯していますか？ (図1)
- カセットロックはしっかり締めていますか？

ポイント!

カセットロックが緩んでいる場合も、カセットとポンプの間隙により[上流側閉塞感知センサー]が感知してアラームが鳴る場合があります。
キーコインを使用して、カセットロックの溝が縦に一直線になるまでしっかり締めます。(図2)

コウアツアラーム ヘイソクアリ

- カセットの先端に赤いキャップがついたままになっていませんか？ (図3)
- チューブについている白いクランプが閉じていませんか？ (図3)
- カセットチューブの付け根(接合部分)がねじれていたりチューブが折れていたりしませんか？ (図4)

ポイント!

体外の見える範囲で原因がないようなら、お腹の中のチューブがねじれたり折れたりしている可能性がありますので、医療機関で処置を必要とする場合があります。

チューブの中のお薬はすぐに固まったりしませんのでご安心ください。

カセットナシ ドウサフノウ

カセットをポンプにきちんとセットしているのに、アラームが鳴って[カセットナシドウサフノウ]の表示がされる場合があります。

- カセットロックが緩んでいませんか？ カセットロックの溝が縦に一直線になっていますか？
- ポンプの動作部位と接触する部分のカセットチューブにゆがみが生じていませんか？
- 薬液カセットは冷蔵庫から出して20分間程経過していますか？ (カセットが冷えすぎていませんか？)

ポイント!

カセットが冷えすぎてお薬が流れにくい場合にも[カセット感知センサー]が感知してしまう場合があります。
ポンプが壊れてアラームが鳴っているのではなく、カセット側の何らかの問題をセンサーが感知していますので、一旦電源をOFFにしてカセットを付け直し、カセットロックの溝が縦に一直線になるまでキーコインでしっかり締めます。それでもアラームが続く場合は、新しいカセットに交換してください。

図1
○正しい向き



×間違った向き



図2

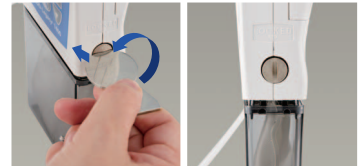


図3



図4





● ポンプに使う電池について

アルカリ乾電池単3形を2本使用します。充電式の電池は使用しないでください。
通常1週間は使用することが可能ですが、寒い時期等は電池の消耗が早まる場合があります。
また、電池のメーカーや保管状況、お薬の投与量も電池の消耗に影響することがあります。
[デンチギレ]等のアラームで慌てないように、電池の交換日(曜日等)をあらかじめ決めておくとう良いでしょう。

● 電池カバーの開け方・閉め方の工夫について

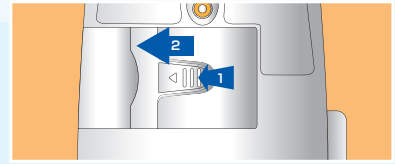
ポイント! 電池カバーの開け方:

右図の[1]の部分強く押しながら[2]の方向にスライドさせて外します。
力が入りにくい場合はゴム手袋や指サックを着けて押しを試みたり、
ペンのキャップ(先端の平坦な部分)等を使って強く押しながらかけてみてください。

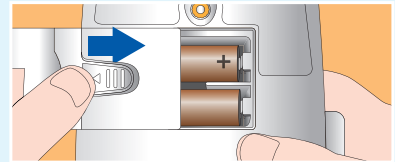
ポイント! 電池カバーの閉め方:

電池カバーを溝に沿わせ、ある程度被せてから水平にスライドしてカチッとする
まで押し込みます。黄色い電池ストラップをかまないように注意してください。

カバーの開け方



カバーの閉め方

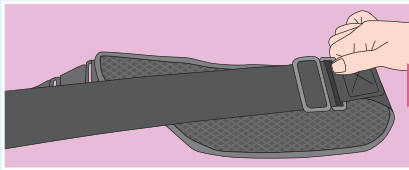


● ポンプ携帯用バッグについて

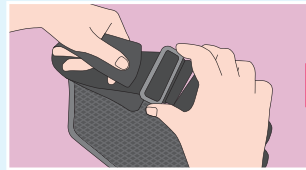
ポンプ携帯用バッグは、クロスボディバッグとウエストバッグの2種類があります。
クロスボディバッグは肩のストラップと腰のベルトでポンプを安全に固定するので、
身体にかかるポンプの重さを分散させることができます。
用途にあわせてウエストバッグと使い分けてみましょう。

ポイント!

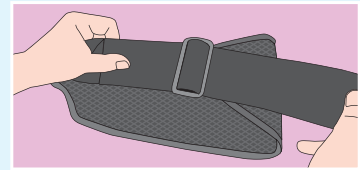
ウエストバッグのベルトを最短にしても体にフィットしない場合、余分なベルトを長さ調節用のアジャスターに折り込む
工夫で、より短く調節することができます。



① ベルトを一番長い状態にする



② 余分なベルトを折り、長さ調節用のアジャスターに通す



③ アジャスターの両方に余分なベルトを通せば完成

● 万が一ポンプが故障した時のために

ポンプが何らかの理由で動かなくなったときに慌てなくて良いように、経口レボドパ
製剤の救済薬の準備について事前に主治医と相談しておきましょう。
どのようなときに救済薬を使用するのかも含めて確認し、デュオドーパ患者手帳
のメモ欄などに記載しておくとう良いでしょう。
併せて、追加投与のタイミングなども記載しておいても良いかもしれません。



● コールセンターの活用について

24時間365日対応しているコールセンターがありますので、何か心配や困りごとがあれば電話してみてください。
電話で解決できない場合は医療機関への連絡が必要な
時もありますが、看護師資格をもった方々が丁寧に対応
してくれれます。
サポートマニュアルの追加が欲しいときや、ポンプ
携帯用バッグの交換が必要な時もコールセンターに
お電話いただければ、直接自宅に送ってくれます。

デュオドーパ®による治療を受けられる患者さんのための問い合わせ窓口

デュオドーパ®コールセンター

フリー
ダイヤル

0120-063-789

受付時間：24時間365日(通話料無料)



わからないことがあれば
いつでもお電話ください。
お待ちしております。